

資料編

① これからのコミュニティ施策の基本的考え方における多摩区での取組の検討について

平成 31 年 3 月 29 日区長決裁

1 目 的

これからのコミュニティ施策の基本的考え方における区域レベルの取組に関する多摩区での取組の検討、特にソーシャルデザインセンターの開設、運営等に係る次の事項に関し委員に意見を聴くことを目的として、これからのコミュニティ施策の基本的考え方多摩区区域レベル取組検討会（以下「検討会」という。）を設置する。

- （１）地域の課題、資源、人材等に関する情報
- （２）ソーシャルデザインセンターの開設、運営及び具体的な取組内容
- （３）その他必要な事項

2 委 員

- （１）検討会の委員は、地域の課題、資源、人材等の地域活動に密接な関連を有する分野に関して実際に活動を行っている者又は知見を有する者とする。
- （２）検討会の委員の就任、退任は、前項に定める者からの申し出による。

3 庶 務

検討会の庶務は、多摩区役所まちづくり推進部企画課において処理する。

4 その他

- （１）検討会の参加が難しい委員には、個別に意見を求めることができる。
- （２）検討会の運営に関して必要な事項は、別に定める。

② 検討会委員名簿

1	有北 郁子	12	近藤 佳長	23	橋本 宜明
2	井坂 資弘	13	杉下 禄郎	24	初田 温子
3	伊藤 直人	14	杉野 晃平	25	藤原 優花
4	伊藤 里紗	15	関 あや子	26	細谷 祥三
5	岡本 幹彦	16	武田ひろ子	27	本多 正典
6	奥川 裕	17	田代たかよし	28	間瀬 葉月
7	粕谷 充子	18	田中 恒輝	29	町田 浩子
8	加藤 寛理	19	田村 彩乃	30	安井 浩
9	金澤 徹	20	俵 隆典	31	山野辺 仁
10	児井 正臣	21	辻野 勝行	32	吉野 泰雄
11	小山 礼仁	22	橋本 健	33	依田 洋祐

(五十音順・敬称略。第12回検討会時)



③ 検討会の実施経過

検討会は、計12回開催しました。各回の結果概要は次のとおりです。

(1) 第1回検討会

日 時 平成31年4月12日(金) 午後7時～9時
会 場 多摩区役所6階601会議室
出席者 委員19人、区役所職員3名
議 題 ・検討会のルールについて
・ソーシャルデザインセンターに係る参考事例について

結果の概要と出席者の主な意見

【検討会のルールについて】

- 司会役と進行役が同じだとまずいのでは。進行は誰が行うか。
- 2回目以降は進行を輪番でやっていけばよいのではないか。
- 前回の会議録を全員に事前に送付をしてほしい。欠席者には当日配布された資料も送ってほしい。
- 5分ほどでも前の振り返りをしっかりとって皆が共通意識を

持った上で進めてほしい。

- メール等で行われた質疑応答については、振り返りの時間の中で説明し、資料としても出してほしい。
- 質疑応答結果は、当日は結果の振り返り程度であればプロジェクタ投影でよいのではないか。
- 進め方は丁寧に、ゆっくり進めてほしい。
- テクニカルな面は行政に任せて、大きな流れや方向性、方針、運用などは委員で検討していけばよい。振り返りの部分も行政に任す形で会議の最初に行えばよい。

【ソーシャルデザインセンターに係る参考事例について】

- 他都市のようにどこかの企業と話がついている、などということはあるのか。そうではなく、草の根でお金のところも自分たちで動いていく、ということになるのならハードルがかなり上がる。
- 助走期間は市からの補助があるとしても、何年後かには自主財源を稼ぐということですか。
- 基本理念について共有すべき。共有の仕方をきちんと決めるのがよい。
- 去年から様々なワークショップを行っているが、課題の認識はできていないと思う。
- 2月16日ワークショップの内容が漠然としている、というのはその通りだと思うが、それをどうやって具体化するかが大事ではないのか。

- 先ほどから共通理解がされていない、という話があるが、それはここに集まっている人達が、お互いを信用していない、ということではないか。ソーシャルデザインセンターのイメージは皆がそれぞれ持っている。違いはあって当然。
- 皆の得意分野などを持ち寄って形にすれば、様々な人の困りごとなどにある程度対応できるのではないかと思う。
- 役所に案を求めるのはどうか。それをやってしまうとこの検討会の意味がないと思う。まずは自分たちでやっていかなければならない。
- 基本的考え方をしっかり読んだうえで参加しなくてはならないし、発言もしなくてはならない。そうでないと行きつ戻りつで上のステップに上がっていかない。
- 求められる機能の中に各区の特性に応じた機能というものもあるもので、その具体的な議論を行うための資料は用意しておいてほしい。
- 次回検討会の司会進行をする委員を決定した。また、次回についてはテーマごとに分かれるのではなく、全体で進行することを確認した。
- 基本的考え方で示されている各機能に則り、具体的な検討を進めることを主眼とすることを確認した。
- 今後の検討会では、冒頭に前回の振り返りを行うことを確認した。

(2) 第2回検討会

日 時 平成31年4月21日(日) 午後2時～4時
会 場 多摩区役所6階601会議室
出席者 委員17人、区役所職員3名
議 題 ・ソーシャルデザインセンターの理念を共有する
・具体的な取組内容－ありたい地域の実現に向けて－

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

- 検討会の位置付けについて確認した。
 - 第1回検討会の振り返りを行った。
 - 議論のルールについて、根拠と論拠に基づく主張を行うことと、全面合意でなくともなるべく多くの面で合意することなどが確認された。
 - 3月の準備会での合意事項と第1回検討会の確認事項をベースとしてこれからの審議をスタートすることが確認された。
- 【ソーシャルデザインセンター（SDC）の理念を共有する】**
- まず多摩区の課題は何かという話をして、その課題に対してどうしたらいいか話した方がいいのではないか。
 - 多摩区の課題は、取えて出さなくても分かっているのではないか。

- この検討会では、実際にSDCを運営する人に対し、こういう課題があるからこれをやってください、と言うようにするために検討するのではないか。
 - スモールスタートで、これだけはやってほしいというものをいれて、SDCをやる人にきちんと押さえてもらえばよいのではないか。
 - 理念を共有する前に、課題がたくさんあって、それを共有することで最終的には理念が出てくると思う。
 - SDCを開設する検討会ではないのか。団体の課題の共有よりも、SDCの議論をすべきではないか。
 - 課題の共有はそんなに時間にもかからないので、言語化で共有したほうがよいのでは。
 - 基本的考え方の議論は数年に渡り行われてきており、2月には多摩区のワークショップもあり、この検討会では具体的な内容について話すのではないのか。また2月の議論に戻るのか。
 - ワークショップでの議論は行ってきたが、市民側から提案して合意してきている事実はない。
 - 団体の活動を行う中での課題出しを行った。
 - ・宣伝、資金調達、人材教育、団体同士の連携
 - ・場所
 - ・情報（他区や他地域では何をしているか）
 - ・人材不足
 - ・つながり（子育て団体、他団体、世代間など）
 - ・地域活動の関心分野は、趣味や余暇を活かした活動が多い
 - ・資金や人材について、持っている人と必要としている人がつながっていない
- 10年後の多摩区の理想の姿について意見出しを行った。
- ・バラバラがつながる
 - ・住みやすいまち
 - ・他地域から引っ越して来なくなるまち
 - ・健康長寿のまち
 - ・多様な主体と多世代がつながる支えあいのまち（多様な主体とは、例えば既存の活動団体、町会連合会、民生委員児童委員等）
- この施策自体は、市民創発が原点にあり、市民が出会って議論する中で何を生み出すが問われている施策である。私たちが自分で考え、自分の言葉で自分たちを動かすような多摩区をつくりましょうというベースがあってやること。一つ一つ確認して合意をもって文言にしていく必要がある。
- SDCのイメージが統一されていない。まとまっていない中で具体的な方向性を出すのは早いのか、間違っているのではないか。
- 予算は大事で、そのための時期を考えなくてはならない。戻るのではなく、今出さ れていることに対して、どういう形でやってみるかを検討する必要がある。

【具体的な取組内容について】

○方法論の説明は、検討項目で言う運営に関することと理解する。

○基本的機能⑤に、「地域の担い手や社会企業家などを育成する」とあるが、「発掘」もするということによいか。

○基本的機能⑥について、「まちのひろば」は、すでにあるコミュニティ機能を持ったひろばとこれから作るものを含むということによいか。

○基本的機能の9項目に対して、本会議中に抽出できた皆さんが困っている事柄を当てはめて、解決できていることを確認していただければ前に進むことができる。時間軸を見ながら進めないと、これまでの会議で決定された7月初旬の中間報告に到達できない。9項目の具体化について次回以降前向きに議論していきたい。

○ゴールにたどり着くまでの方法論として、何かをやる前にはなぜそれをやるのかと事後の評価システムを共有する必要があること、ノウハウを保全すること、チームワークを共有し自分の強みを生かすこと、結果についても共有する必要があることについて確認した。

○次回検討会の司会進行をする委員を決定した。

○理念（1つ）と基本的機能を踏まえた具体的な取組について次回までの宿題とする。

○理念について次回議論する。何項目とするかは議論の中で

決定する。

(3) 第3回検討会

日 時	令和元年5月10日（金） 午後7時～9時
会 場	多摩区役所6階 601 会議室
出席者	委員20人、区役所職員3名
議 題	・今後のスケジュールについて ・多摩区におけるソーシャルデザインセンターの理念について ・ソーシャルデザインセンターの具体的な取組内容について

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○第2回検討会の振り返りを行った。

【今後のスケジュールについて】

○資料2により今後のスケジュールを確認した。

【多摩区におけるソーシャルデザインセンター（SDC）の理念について】

○資料3により、これまでに出了た理念に関する意見を共有し、2人1組で絞り込みを行った結果、次の結果となった。
→得票数7票：2、8番、得票数6票：5、7番、得票数5票：6、10、14番

○16項目から7つに絞り込んだ経過をしっかりと記録で残し

てほしい。

○絞り込みに当たり、似たような文言が入っている文章をまとめるとよいと思う。

○理念は、一つの文章にするのは難しいので、3つから5つくらいの項目にまとめられればよいと思う。

○得票の一番多かった2番と8番について、多様な主体には町内会・自治会、社会福祉協議会など様々あるが、そうした主体と多世代がつながるということでは、一つにまとめられるのではないか。

○多世代がつながる、交流が盛んになる、住みやすいまちなるということが出ているが、これらは我々がしたいことが中心にあるように聞こえる。この利益を享受するのは市民であり、それが見えるように落とし込んでいった方がよいと思う。

○得票数は少ないが、残した方がよいものはあるか。

→ 12、13、16番について残した方がよいという意見があげられた。

○異なるレベルが入っているものの中から選ぶのはどうなのか。

○作業グループを作り、出された意見を踏まえ、次回の会議までに検討することかどうか。

→ 立候補により作業グループに入る委員を決定した。

【SDCの具体的な取組内容について】

○資料3は、1～43番までであるが、37～43番は組織論や規

約に係る内容なので、まずは36番までの中から検討したい。

○初めに1～36番を基本的機能の9つの機能に分類するやり方が適当ではないか。

○基本的機能と具体的な取組についての意見の紐づけは、この会議の中で話し合いながら進めたい。

→ 出席委員を4グループに分け、1～36番の取組を9つの基本的機能に紐づける作業を行った。結果は次のとおり(丸数字は基本的機能)。

・ 1番：①⑤、2番：②⑦、3番：⑨、4番：③⑨、5番：②、6番：⑤、7番：②⑥、8番：①②⑥、9番：①②④⑦、10番：⑤、11番：⑦、12番：⑧、13番：①⑨、14番：①、15番：③④、16番：②⑥、17番：⑦、18番：②、19番：①⑥、20番：⑤、21番：⑤、22番：⑧、23番：②、24番：①、25番：⑧、26番：④⑨、27番：②、28番：①～⑨、29番：③、30番：⑦⑧、31番：⑤⑧、32番：⑤、33番：①②、34番：⑥、35番：①～⑨、36番：①②③⑦⑧

○16番はSDC自らの区の課題解決を行うと書いており、他は団体と団体をつなぐというもの。16番だけ異質と感じた。

○基本的考え方で示されている9つの機能について役所が提示してくれているものは、それほどきれいに整理されているものではないと感じる。私たちの言葉で再構成していく必要がある。

- 市が示した9つの機能は想定されるものとして出されているもの。多摩区でも36個の意見が出される中で、区独自のものが出てきた。多摩区なりの機能を作っていくのが使命ではないか。
- 理念と機能とは別々にたたいたんでもんだ方が、つながり具象などが共有できるのではないかと感じた。
- 有志で理念の検討をする中で何らかの形が出てくると思うので、一定のものが出ても終わりにせず、機能も含めて皆で共有するためのたたき台を検討できればと思う。
- 課題出しばかりを行っているが課題はなくならない。10年後、20年後もその時の課題がある。今我々ができるのは、今活動している人たちの課題を吸い上げて多摩区としてどうしているかということだと思う。
- 他人事のようないつきの意見を発言される方が前は来ていた。SDCが出来た時に自分でやりたい、自分のところをやってもよいという、SDCの土台となるような人・団体に来てほしい。
- SDCの土台になるような団体がベースになるのであれば、こういう機能はできないのかといった、具体的な議論もできるのではないか。
- 最終的にボランティア組織をベースにするのであれば、手をあげる人がいて、その人が思いを語って、それに賛同するたちが集まって中心になってやらないと。
- SDCは元々区民がやるという前提で集まっているのではないのか。夢を形にしようという思いは一緒ではないのか。自分は皆を信じて参加している。
- 準備会よりもSDCができた後のところで動きたいという思いがある。早くどんどん進んで、どこと交渉してこういう方が楽しい。
- SDCは区民が中心となって作る、区民のための区民が行う活動の拠点になるようなものがこれからできる。基礎の部分は色々な方が、個人の考えをしっかりと話して、時間が経たってもしっかりと作る、その上に組織を立ち上げることにしていかないと。どこかの団体に任せましようとなった時に、きっとそういうものではなかったという不満が出てくるのではないのか。どういう組織にしていっても皆で考えなきゃいけないか。
- それぞれの委員が参加した動機も発言も一番いい方に解釈して進めていくべきとの意見があり、一方ではこのメンバーで集まってもこうにしかないのではという意見もある。矛盾しているようだが全員で話し合って進めていかなくてはならない。
- ◎次回検討会の司会進行をする委員を決定した。
- ◎次回検討会におけるSDCの具体的な取組の検討については、グループ分けして検討することとし、分け方等については、司会進行の委員と相談し各委員に連絡する。

◎SDC のキャッチフレーズについて、次回検討会までの宿題とすることとした。

(4) 第4回検討会

日 時 令和元年5月26日(日) 午後2時～4時10分
 会 場 多摩区役所11階1101会議室
 出席者 委員21人、区役所職員3名
 議 題 ・多摩区におけるソーシャルデザインセンターの理念について
 ・ソーシャルデザインセンターの具体的な取組内容について
 ・ソーシャルデザインセンターの開設場所のアイデアについて
 ・フォーラムの開催案について

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○第3回検討会の振り返りを行った。

【多摩区におけるソーシャルデザインセンター(SDC)の理念について】

○資料1で示している理念は、5人の委員で議論して作成したたたき台。キャッチフレーズ的に「みんなが認め合い、力を合わせてみんなが幸せなまちをつくる」を出し、さらに補助的な説明を加えた。2つに分けたのは、誰が聞いて

も理解・イメージできる文章とし、具体的にどういうことをやっていくのかという概要を加える組み立てとしたため。

○前回、理念について16の意見が出されたが、「多様な主体」、「多様な資源」などはこれだけだと分かりづらい。子どもでも分かるように、自分事として考えてもらえるように「多様な主体」を「みんな」とした。「つながる」という言葉も出ていたが、「つながりたくない人」「つながれない人」もいるので、「認め合い」とした。また、「住みやすいまち」という意見も出ていたが、住んでいる人以外の外から来る人にとっても良いまちにしていかなくはならないので、「幸せのまち」とした。

○これまでの16の意見をまとめるとこうなるのではないか。最大公約数をとれば、ぼやけるのは仕方がない。

○この理念を今後、組織の目的、仕組み・仕掛けなどに具体的に落とし込んでいけるとよい。

○たたき台の「みんなが」がどこまでかかってくるかという解釈は人によって異なる。この検討会の議論の中で決まっていく。

○「多様な主体」、「多世代」、「多様な資源」ということが大切にすべき点。これを皆さんにどう伝えるかというところから考えていくべき

○理念の文章について、委員の意見を確認するため多数決を取った。

①「みんな」は冒頭のみ『みんなが認め合い、力を合わせて幸せなまちをつくる』→6人

②「みんな」を全部取る『認め合い、力を合わせて幸せなまちをつくる』→1人

③「みんな」を3つにする『みんなが認め合い、みんなが力を合わせて、みんなが幸せなまちをつくる』→2人

④点の位置をずらす『みんなが認め合い力を合わせて、みんなが幸せなまちをつくる』→10人

⑤原案どおり『みんなが認め合い、力を合わせてみんなが幸せなまちをつくる』→④が多数のため、未確認

○これまでの16の意見は記録に残しておいて、SDCが立ち上がった際に何らかの文書表現にしていっていただければよいと思う。

【SDCの具体的な取組内容について】

○前回、基本的考え方の9つの機能に沿って具体的な取組で出された意見を分類した。これを基に多摩区としてのSDCの機能について検討していきたい。

→出席委員を4グループに分け、多摩区のSDCの機能の検討を行い、結果を発表した。

グループ1

- ・①③⑤⑦⑧について検討した。①は専門職によるコーディネートや区民に対しての人材育成、団体対応をしてみよう。
- ③の地域課題解決は早くできるものはやってほしい。10年

先は外出できない人がタブレットやオンラインで関わっていただけるようにしてほしい。⑤は人材育成。⑦、⑧は今の団体の壁を取ってほしい。連携がされていない。⑧は新しい参加者を得る。

グループ2

- ・機能を自分達の言葉で表現するため、①～⑨の大テーマにつながる中テーマを選択することにした。①③④⑥⑨について検討した。①は1、35番、③は4、26、29、36番、④は9、35番、⑥は7、8、19、34番、⑦は2、9、17、30、36番

グループ3

- ・優先順位付けやそれを判断する基準について話をした。
- ・既存の市民団体で実施できるもの・やろうと思えばできるもの、SDCでなければできないものという分類の仕方があるのでは。SDCでなければできないものとしては、③地域課題解決の社会実験のように新しい取組につながるもの、②の資金の助成につながるような取組が考えられる。

グループ4

- ・具体的な検討に至らなかった。
- ・⑧について、ニーズは一体何か分かっているのかという疑問が出てきた。それを考えていかなければならない。①～⑨全てに登録団体支援とあるが、SDCやその機能との関係性はどうか、何を支援するのか。

・基本的考え方に書いてあることと、これまでに出了た具体的な取組の意見を含めて、今の段階でのSDCの取組内容案を大まかに作って、フォーラムで提示して参加者から拾い上げてもらい確定していけばよいのではないか。

○本当に困っている人の声を吸い上げられているのか分からなない。フォーラムがその位置付けになると思う。多摩区は連携が薄い。連携をしながら全体でSDCを作っていくべきかもしれない。フォーラムにしていけるのではないかと必要。

○課題は出ているが、強みもあると思う。それが分かると課題の優先順位も付けていけるのではないかと。

○スケジュールのこともあるので、前回と同じように何人かに集まってもらい原案づくりをしないと終わらない。

○何の話をしたらいいかよくわからなかった。どうやって自分たちの言葉でまとめるのかというのは大変なことで短時間ではできない。この内容はここでしっかりと時間を取ってやるべきだと思っていた。

○フォーラムでは、理念、具体的な取組内容などもはっきり示せるところまで持っていていくのがよい。

○やり方が分からないという意見があったが、その現状が見えたのはよかった。今日話し合ってみて温度差があることも分かった。少人数でたたき台を検討するやり方がよいと思う。

→次回検討会までに希望する委員で原案作成することとし

参加する委員を決定した。

【SDC 開設場所のアイデアについて】

○次回検討することとしたい。3月の準備会で区から状況の説明があった、区役所1階ふれあいショップせきれい跡地か、それ以外の適した場所がないか、次回までに考えてほしい。

【フォーラムの開催案について】

○区から7月の多摩区フォーラムの開催案を資料3により説明した。

【SDCのキャッチフレーズについて】

○今回議論した理念の文章と照らし合わせて、再度キャッチフレーズを考えることを次回検討会までの宿題とする。

◎次回検討会の司会進行をする委員を決定した。

◎上記のとおり、SDC 開設場所のアイデア、キャッチフレーズの案について次回検討会までの宿題とした。

(5) 第5回検討会

日 時 令和元年6月14日(金) 午後7時～9時
会 場 多摩区役所11階1101会議室
出席者 委員22人、区役所職員3名
議 題 ・多摩区におけるソーシャルデザインセンターの機能・具体的な取組内容について
・ソーシャルデザインセンター開設場所・運営のアイデアについて
・中間とりまとめのイメージについて
・フォーラムの開催について

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○第4回検討会の振り返りを行った。

【多摩区におけるSDCの機能・具体的な取組内容について】

○資料1-1、資料1-2を用いて、小グループでの検討状況について説明

○資料1-2①に関して、コーディネーターは単純に芽を育てるだけでなく、多様な主体をつなげていこうという議論がある。4、5年前からコーディネーターは必要だと言われているのに、小さくみえるのはどうか。

○①のコーディネーターと、②のマッチングは似通っているという意見があった。①はプロデュース機能に特化した方が

分かりやすいのではという意見もでた。できればコーディネート機能の機能をプラスしておけばいいと思う。

○団体や人、企業、こういう人を育てていくということで議論している。プロデュース、コーディネートという単語では、多くの人に理解されることが難しいのではないか。SDCの理念として誰でもわかる話をしている。

○今までの議論を踏まえ「芽を育てる」を「土壌をつくる」としてはどうか。

○「土壌をつくる」はすべてに当てはまるのではないか。

○②のBだけ「SDCが」と入っているが、意味はあるか。

○「マッチング」を「つなぐ」としてはどうか。

○「芽を育てる」を「土壌を創る」に変えることについてどうか。⇒賛成多数

○②の「SDCが」、削除でよいか。⇒賛成多数

○「マッチング」を「つなぐ」にかえるか。⇒意見が割れているので、そのままでもいいこととする。

【SDC 開設場所・運営のアイデアについて】

○区役所7Fの区民活動センターの活用は考えられるか。

○空家の利用、学校、小中学校などの案はないのか。

○SDCの考え方からすると、今現在の小中学校でモノを売ったりすることはできるのか。空家などで今から契約してとというのは大変であり、場所も人が集まるところかという観点も大事。

○スモールスタートという観点、人の常駐場所、電話、パソコンなど、いろいろな準備が必要であることから、早めに関所を抑えて検討すべき。

◎せきれい跡地を希望することによいか。⇒異議なし

○新たにスタートすることなので、既存の運営委託的な発想はやめて、新しい団体、NPO法人なり公益財団なりを作って、そこがSDCとしてのファクションを担うということがよい。

○最初から法人を立ち上げるとするのは困難。最初はゆるい形もあるのではないか。そこで助成金を受ける、法人格の取得を目指すということとで考えられないか。

○運営協議会などでスタートする形もあるのでは。やろうという人でとにかく始める、必要があれば法人化する。

○SDC 自体が自立を基本的な目標として考えている組織。自分たちで資金を集め、働く人もボランティアではなく有料で回転できる組織を作ることとを頭にいった上で、行政の支援を受けようという議論は後にした方がよい。

○資金の作り方については、メンバーでよく協議しないといけない。我々が何をやりたいのか考えていかなければいけない。お金が集まれば何やってもいいというわけではない。

○将来自主財源で回すという明確な目標があるのであれば、コンソーシアムを組んで事業母体を作らないと、回らないと思う。地場に密接に関係がある例えば小田急さんとか、

地銀さんとかと、いくつかのNPO 法人さんとかでコンソーシアムを組んで財源をまず確保するということがないと、先に進まない。

【中間とりまとめのイメージについて】

(特に意見なし)

【フォーラムの開催について】

○7月28日のフォーラムの時間配分はどのようなのか。具体的な取組内容等、参加される方に理解してもらえるか疑問がある。

○多摩区の取組などで20分、具体的取組に絡めて話をお願いするゲストトークについて質疑応答含め40分、グループ討議は100分前後を予定している。事前申込を前提としている。

○検討する内容は少人数で検討するべきだと思う。フォーラムで意見を伺えばよい。

○チラシのイラストがホテルのイラストのようだ。イメージが湧きにくいのではないか。SDCができて何ができるのかを書いた方がよいのでは。

○内容が広すぎて、すごいものができると思われのでは。現実的には何回も議論してこういう状況なので心配。

○チラシを打つときに、まずは時期が年度内という目標はありつつも、運営母体についても広く意見を募るという表現があるのが今時点ではいいのではないか。

○事業母体を募るところの話も、私たちはまだしていない。本当に区民に十分にSDCの情報が行きわたっていない。まずSDCとはなにか、こういうのができるようだが、自分達はどういう風に関わりたいのか、意見を募集することとがフォーラムと思う。

○フォーラムに来てほしいのは誰か。広くということであれば、必要としている人に届けられるように。

【SDCのキャッチフレーズについて】

○これからの議論もあるので、本日は目を通していただく程度とする。

○次回検討会の司会進行をする委員を決定した。

◎23日（日）には中間報告の形の原案は出して議論いただく予定。したがって23日に資料として出せるよう少人数で事前議論を行うことを確認。手挙げによりメンバーを募り、日程調整を行う。

(6) 第6回検討会

日 時 令和元年6月23日（日） 午後2時～4時
会 場 多摩区役所6階601会議室
出席者 委員 14人、区役所職員 3名
議 題 ・多摩区におけるソーシャルデザインセンターの開
設案（中間とりまとめ）について

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○第5回検討会の振り返りを行った。

【多摩区におけるソーシャルデザインセンター開設案（中間とりまとめ）について】

○第5回検討会で決定されたとおり、今回の検討会に先立ち小グループで具体的な取組について意見・アイデア出しを行った。資料1はその内容をまとめたもの。

○資料1の内容を踏まえ、資料2・中間とりまとめ（たたき台）を作成したので、本日はその中の2～6頁「4 SDCの基本的機能と具体的な取組について」を中心に合意形成したい。

○議論の進め方については、資料3のとおり、グループ討論
→出席委員を4グループに分け、中間とりまとめ（たたき

台）の修正意見の検討を行い、結果を発表した。

グループ1 ※主に次の2項目を検討

- (1) 多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る
- (2) 多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする

・(1)の具体的な取組の例示については、次のとおり追加・修正をしたい。

- 地域ごとに人材や団体の発掘調査を行う。
- 地域ごとのネットワークづくりを推進する。
- 上記の発掘調査とネットワークづくりを区全体の活動ネットワークに結びつける。
- 活動の場の確保と運営を行う。
- 地域で活動をしている団体等から事業企画を募集し、資金助成をする。

※他の項目は原案どおり

地域団体の発掘調査を行い、発掘した団体を地域ごと(かなり小さい単位)にネットワーク化することを一段階目とし、これを区に集約して全体のネットワークづくりにつなげていく。活動の場の確保と運営については、地域の中で活動の場に使えるところを発掘して情報共有やその場に関わっていくということ。

様々なスキルを持つ人たちを活用した講座やワークショップは、ネットワークづくりにつながるのではないか。

- ・(2)の具体的な取組の例示について、「フードバンクの

運営」は、SDCが直接実施するのではなく、情報を拡散する支援だと思うので、外して「マッチング」に絞ってはどうか。

グループ2 ※主に次の2項目を検討

- (3) 地域課題の解決を目指した社会実験の展開

- (4) 地域活動への専門的支援

・総論としてはアグリーである。間にある各論については次回のフォーラムでの呼び水であろうということで個別の議論はしていない。大きな丸(太線)の内容について追加記載をした。

・(3)については、ニーズ、シーズ調査のようなものをフォーラムのタイミングで新たに募集してはどうか。多摩区での活動にはなるが区民に限定しないで、小田急や近隣住民などと連携し、広域連携といった視点が必要ではないか。特に防犯、防災については、多摩川流域の近接する都内の方々との交流が必要。

新規事業を募集していく中では、ステージゲート審査とといった考えが必要。ステージゲート1と2で金額に差をつけるなど。ステージゲート審査ができる人材、大学の先生や起業家との連携も必要。

・(4)については、外部の有識者の専門的な知見、学校法人の支援も必要ではないか。

専門家の募集にあたり人材プールが必要。人材募集シー

トをウェブなどでオープンにしてマッチングしたらよいのではないか。

グループ3 ※主に次の2項目を検討

- (5) 地域で人を育てる仕組みをつくる
- (6) 「まちのひろば」への支援

・(5)の説明は、高齢化の問題だけに焦点があたっているように感じた。他の課題にも視点を持つよう「地域課題」という文言を加えてはどうか。また、生徒・学生に「地域住民」を加えることで、市民全体を育てることになりたい。

ボランティア活動の実施と内容が重複したため2つ目の丸の項目を削除した。

点線内に記載されている、その他のアイデアについて、1項目目に「土曜日」との記載があるが、自身が活動する中で企画側の事情と感じた。利用者にとっては土曜日が難しい人もあるので、週末などという形で限定しなくてもよいと思う。また、「市民自治」という言葉は難しいので、「市民を中心としたまちづくり」としてはどうか。こどものプログラミング教室について、プログラミングでは例示にしてはどうか。

・(6)の1つ目の丸の項目について「販売」は限定的な内容となるため、作成することとめてはどうか。

点線内の公園・図書館等の見直しについては、実現が困

難であり、例示ではあるが記載については要検討だと思う。

グループ4 ※主に次の3項目を検討

- (7) みんなに届く情報発信
- (8) 多摩区内の人と人とを結ぶ
- (9) 多摩区の地域特性を活かした取組

・(7)について、「みんな」に届く情報発信の「みんな」というの実現するには、いろんなところに配慮する必要があると感じた。具体的にいうと、各団体は頑張っているが横の情報共有、つながりができていない、催しが被るなど。そのあたりを改善できればという意見があった。文章の修正としては、点線内の「必要とする人に必要な物を届けるための方法の研究と実践」を太文字の丸の項目に格上げしたいという意見があった。

・(8)について、「住民・企業・団体の交流イベントを開催」とあるが、これに「大学」を加えた方がよい。この実現には団体間の情報を横串にする仕組みづくりが必要。点線内の、他都市、他地区やコミュニティカフェ、子ども食堂の連携について、SDCで情報をまとめあげて情報発信できないかという意見があった。

・(9)はそのままでよい。

→各グループの発表後、全体での意見交換を行った。

○太文字の丸の具体的な取組の記載や点線内の記載はあくまでも例であり、フォーラムなどで例示あることを示す記載が必要。

- (5) の点線内の親子向け子育て講座について意見があったが、父親の参加を見越した形で土曜日にしたという理由はある。「週末」でもかまわないので残してほしい。
- 市民自治と市民を主役とするまちづくりは意味が違う。市民が自分たちの生活なり地域の運営を自分たちで考え、自分達で決めていくということが、まさに自治であり、原案どおりとしてほしい。
- 公園・図書館等の見直しに係る記述について、今現在頑ななルールがあり課題になっている。図書館の使い方について実際に見直しが始められている。市民からもしっかりと意見をいうべきである。
- 公園・図書館等の見直しに係る記述は、このままの文章だと関係機関の理解は得られないと思う。良くして欲しいという意味だと進行の中で工夫をして欲しい。
- 「既存施設」と書いてあり、さらに公園・図書館等とあるが違いが分からない。
- フォーラムでの議論が各論に入っていく恐れがあるので、とんがっている内容は敢えて外して議論を促したいという思いがある。
- あくまで検討会で意見が出たという形であり、幅広く示す方がよい。
- 各論としては重要であるが、ここは総論を記載すべき。
- 「土曜日」の記載はその曜日が難しい人もいる。限定的な記

載は外すべき。

- ここにいるメンバーの意見が限定されていると思われるのが心配。委員がかなり偏っていると思われないものとしたい。この記載は共通しているものにすべき。
- このたたき台は、資料1の項目を整理して掲載している。細目から漏れているものがあれば足せばよい。議論があった点をオープンにすべき。
- 中間とりまとめは、中庸を求めるのではなく、色々な意見をもろうためのものではないか。点線内は出された意見を例示しているだけ。
- フォーラムでは、このたたき台のレイアウトで示されるのか。点線内は議論の例示であり、焦点が当てられないよう進行を工夫してほしい。
- 点線内の議論をもとに、太文字の丸の具体的な例示が出された。フォーラムでは議論の流れを説明したうえで行われるべき。
- 点線内（検討会で出されたその他のアイデア）に記載された文言は修正せずそのままとし、フォーラムの進行の工夫していくということでしょうか。
- 全員賛成
- 資料1に関して、具体的サービスを話し合う中で、次のとおり紐づけを変えた方がよいという意見もあった。
- ・生田緑地に関する項目(1)→(9)に
 - ・市民団体をつなぐ項目(1)→(2)に

・地域課題解決に関する項目（１）→（３）に

○SDCの立ち上げ方、やり方として、既存の中間支援に取り組んでいる団体のノウハウや成功事例、まずかった点を引き継いだり、共存でも良いが反映するのがよい。英知を吸収して、という内容を加えるべきではないか。

○たたき台の「６ 運営について」の項目の一つに加えるのはどうか。

→全員賛成

（７）第７回検討会

日 時	令和元年7月12日（金） 午後7時～9時
会 場	多摩区役所1階講堂
出席者	委員20人、区役所職員2名
議 題	・多摩区におけるソーシャルデザインセンターの開設案（中間とりまとめ）について ・ソーシャルデザインセンターの開設に向けた多摩区フォーラムについて ・今後のスケジュールについて

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○第6回検討会の振り返りを行った。

【多摩区におけるSDCの開設案（中間とりまとめ）について】

○コミュニティ施策は、地ケアの視点から支えるものと思うが、この点が触れられていない。

○市の施策なら概要のプリントと一緒に配布すればよい。中間とりまとめに地ケアを入れると、積み直さなければならない。○コミュニティ施策は、本質的には地ケアの根底に基づいて進めるものと思うが、地ケアを説明するとなるとコミュニティ施策を進めることと違う話になる。

○自分と思う1番重要な理念は、これまでのコミュニティ活動と違い、自分たちでヒトモノカネを調達し結果を出していくこと。「必要な資源を獲得し結果を生み出すもの」を入れてほしい。

○ステージゲート審査は説明しないと分からないのでは。説明を加えた方がよい。

○第3回検討会までにだされた16項目は、3のSDCの開設理念に示した9項目と合致しているなので、わざわざ書く必要ないと思うがどうか。

○16項目を箇条書きでよいかのせる。

○これまでの摘録を見てもらうことでもできる。フォーラムにおいて、わざわざ配ると見なければならぬと思われてしまう。なかつたことにはしないので、どこで見ればよいのかを明確に示せば足りる。

○地ケアは、基本的考え方の大元締め。そのために具体的に取り

上げることもなかったもので、あえて書かなくともよいと思う。

○これまで、このメンバーで地ケアの議論はでてこなかった中で、加えることは違うと思う。

○6以降は合意しているところはないので、フォーラムにおいて、各々意見をいってほしい。

○6は文章の中で、次のような意見が出されたとなっているが、タイトルがほしい。

○コンソーシアムで大事な認識として、行政機能を一般人が肩代わりしていくことはないもので、いろんなところと協力したほうがよい。

○令和元年度以降だとお尻がないので、今年度中の開設を目指しているのであればスケジュールと合わせては。

○まちのひろばについて、7頁の図だと、ここに書いてあるもの全てがまちのひろばになる。漠然としてとらえどころがなくなるので、図はいいかなものか。

○我々が話した内容でない項目は触れなくともよい。5以降は、今後話し合う内容なので触れる必要はない。

【SDCの開設に向けた多摩区フォーラムについて】

○中間取りまとめの説明は区がするのか。

○我々の立ち位置を教えてほしい。

○グループの中でこれまでの議論など説明してほしい。進めるのは区職員が行う。

○説明はだれが行うのか。これまでの議論を知っている人に

お願いしたい。

【今後のスケジュールについて】

○運営組織の議論も9月に着手したい。10月後半を目途に取りまとめを、2月を目途にSDCを設立したい。その間、施設整備や立ち上げ支援も行っていきたい。

○スケジュールは確定か。支援準備は2か月なのか分らない。2月開設も確定か。

○行政内部の手続きもやっけていく。開設は早くとも2月を目指して検討したい。

○今年度の取組しかでていないが、来年度以降の予算も考えているか。

○立ち上げ支援をすることは示している。補助金が未来永劫続くことは想定しづらく、自立して自主的に運営していくことを目指していく。

○すぐ収益がでると思えない。少なくとも来年度まで予算はあるのか。

○明確には申し上げられないが、今年度限りで支援がすむとは思っていない。

○事業を行うには、自主的に行うところでないといけないと思う。その点、運営母体がどのように提示できるか。そこは十分理解してということが、11月から示されていくのか。

○11月から考えるというよりも、検討会の中でも考えてほしいというイメージ。

- 令和2年度以降の流れも示してほしい。イメージできるところまで情報がほしい。
- 区が全く関わらないというイメージはしていない。区として中間支援のイメージなど行政としても考え方は示していきたい。
- 実施するにあたり区としてはイメージできたが、他区の情報が必要。
- 運営する人の問題もある。私には先が見えず大丈夫かなという印象を持った。
- 次回検討会の司会進行をする委員を決定した。

(8) 第8回検討会

日 時	令和元年9月13日(金) 午後7時～9時
会 場	多摩区役所11階1102・1103会議室
出席者	委員32人、区役所職員3名
議 題	・多摩区フォーラム及びインターネット等を通じて寄せられた意見について ・寄せられた意見の開設案への反映について ・ソーシャルデザインセンターの運営について

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

- 第7回検討会以降の振り返りを行った。

(会議の進行について)

- 今日の議題について、これだけの資料を短い時間でやるのは難しい。
- 資料確認の期間が1日しかなかった。ここで腰を据えてやらないと漏れが出る。
- 把握した意見について、中間取りまとめへの反映が必要か、必要であればどういう内容で反映させるか。進め方の段取りを決めないと。

【多摩区フォーラム及びインターネット等を通じて寄せられた意見について】

- 同系統の意見をまとめることはできないか。討議するにしても読み切れない。系統だけでなくフェーズについても整理してはどうか。
- フォーラムの参加者から受けた印象として、それぞれがSDCの概念をつかみきれていないと感じた。何をやるのか明確にしては。
- 運営、サービスなど全体の切り口、議論する予定を共有して進めるべきである。
- SDCの概念を自分達がうまく説明できない。
- これだけ意見が出たことに感動した。この方たちに少しでも関心をもっていただいたことは成果。SDCが具体的に何をするかを書いている。これからの議論はそれを見て。
- 中間とりまとめには、区として説明した内容と検討会で議論した内容が混在している。区として説明した部分について

て今後検討会でじっくりやっていくとなると、今の段階で
次第2の議論には進みにくい。

○資料2は、フォーラム等でいただいた意見を反映した開設
案のたたき台。中間とりまとめの内容から変更した箇所
については下線を引いている。

○盛り込めていない切り口はあるのか。

○その点も含めて足りないところがあれば議論してもらいたい。

○SDCとは何か。何故いま問題となっているのか、何かが失
敗したからか。

○中間とりまとめは最大公約数的にうまくまとめられてい
る。全体的にはこの流れで最終案に持っていったよと思
う。これまで議論してきた内容が取り込まれており、自信
をもって意見交換したらよい。

○まとまっているとは思いますが、SDCがどんなものかと言われ
た時にどうか。誰かに説明するとき、説明された人が違う
考えを持ってしまうのはいかがか。

○資料2の内容は事務的にはよくまとまっている。9つの具
体的機能を深く議論すれば他は自ずと決まる。

○開設案の項目1・2を話してない。段取りされずに議題の
2番にとぶのが納得いかない。検討会ではこれまで開設理
念と基本的機能の9項目しか検討していない。

○資料1の検討会以外の人の声はとても重要。仕分け・分類
して進めた方がよい。

○共有するところがあれば。資料1のまとめ・グループ分
けをしないと、ここできかない。今日は皆の知識を共有す
る地ならしと捉えて次回に臨んでは。

○SDCについてお答えすると、多摩区オリジナルの中間支援
組織。それをみんなで考えて作ろうということ。

○開設案の項目1・2について話していないという声もあるが、
進め方は開設案の項目4の議論を中心に進めた方がよい。

○資料の作り方、熱意は伝わるが、区の責任編集でもう少し
読みやすく分かりやすくしたほうがよい。問題がないかは
細かい資料を読んで判断すればよい。

また、検討会に遅れて参加した場合の発言権や、進行につ
いて議長の指示に従うといった内容を会議のルールとして
決めた方がよい。

○次回に向けては、資料1を集約したものがベースでよい。
盛り込めていない意見について分科会で精査したり個別に
事務局に意見する形でもよいのでは。次回までほぼ一週
間しかないので、スケジュール的には延期もよいのでは。
喧々諤々、否定的な意見も飛び交うが、市民創発なのでポ
ジティブな意見交換ができるとよい。

○検討する範囲を絞ったかどうか。

○これからの進め方や資料の修正方法について、期限を切っ
て意見をいただくということにするのか。

○時間もないので区と次回の進行者に一任でよい。

- 次回は運営について話をする時間をとってほしい。
- 区に一任する内容は、資料のまとめ方と会議の進め方でよいか。
- 反対意見なし—
- ◎次回検討会の司会進行をする委員を決定した。

(9) 第9回検討会

日 時 令和元年9月22日(日) 午後2時～4時
会 場 多摩区役所11階1101会議室
出席者 委員16人、区役所職員3名
議 題

- ・開設案の検討の進め方について
- ・フォーラム等で寄せられた意見(要約版)の確認
- ・寄せられた意見の開設案への反映について
- ・ソーシャルデザインセンターの運営について

結果の概要と出席者の主な意見

- 【これまでの振り返り】**
- 第8回検討会以降の振り返りを行った。
(会議のルールについて)
 - 前回検討会で、検討のルールをきちんとしてほしいという意見が出た。本日の次第の裏に以前まとめた本会議のルールを載せている。これはどんな会議においても基本的なこ

と。前は遅刻者がいたが、どうしても遅れる場合は事前連絡をする、入り方を注意するなど、大人のマナーとして考えてやっていただきたい。

【開設案の検討の進め方について】

- 開設案の検討については、今日を入れてあと3回ぐらいで終わりにしたいと考えている。時間を区切らないと進むものも進まない。今日は開設案の項目1～6を一通り話し合って次回再度話し合う。全体を見ながら議論を成熟させていきたい。
- 時間がない中で集まっているので、意見がまとまらない時は、意見がまとまらなかった、という結論を出してほしい。
- 本検討会や資料3の開設案の位置付けや役割、これまでの検討状況は資料1のとおり。共有認識を持った上で、パターン1の開設案を徐々にブラッシュアップしていく形で議論を進めてもらいたい。

【フォーラムで寄せられた意見(要約版)の確認について】

- 資料を見て、どの資料とどの資料が関連して、どう変わったということが分らないので次回までに検討してほしい。

【寄せられた意見の開設案への反映について】

- (項目1.「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における検討)
- ここが一番問題。今までこういうことをやってきた、こういう反省があったという、これまでの経緯、反省がない。

- 今年の3月に市としての「基本的考え方」が出され、その話し合いは終わっている。
- これまでの経過が分かるように、関連ホームページのアドレスを追記してほしい。
- ここに、地域包括ケアシステムとの関連性を入れたらよいのではないか。
- フォーラム等で寄せられた意見をうまく取り込んでまとめているので、このままでよいと思う。
- この資料は誰に向けたものか。一般の市民向けなのか、事業を担う人向けなのかによっても違う。
- 区民の皆様にお示しする役割と、実際に運営を担っていただく組織に対し、本開設案に沿った運営を求めていくという2つの役割がある。
- （項目2.多摩区を取り巻く状況）
- 多摩区を取り巻く状況は色々なところに書かれている。無くてよいのではないか。
- 多摩区のSDCをやる人がどう捉えるかということなので、どこかに書いてあるからよいというものではない。
- （3）に地域包括ケアシステムとSDCとの関係性が書かれていない。（1）にも人材と情報を引き継ぐと入れてほしい。「エ」の項目についても、磨けば光る多摩事業だけでなく、大きなくくりで地域課題対応事業全体とSDCが、どう協働し、リンクするかを書いてほしい。
- 項目2は既存施策について書いており、その後の項目3からそれを踏まえたSDCとの関連ということになるので、このままの流れでよい。
- （項目3.多摩区におけるSDCの開設理念）
- 最大公約数として取り込んでいるので、このままでよい。
- 「みんなが認め合い…」という理念は、最大公約数で結構だが、区民にオリジナリティを提示できるような標語にしていただければよりよい理念になると思う。
- 異議があるなら次回までに対案を出してもらい、どちらがよいかを検討すればよい。
- （項目4.SDCの基本的機能と具体的取組について）
- 特に意見等なし
- （項目5.開設場所）
- このままでよい。議論のしようがない。
- （項目6.SDCの運営と多摩区役所の立上げ支援について）
- 地区カルテの活用が書いてある。地域にはこういう人がいるというような情報を共有していくということか。また、区役所のこれまでの縦割りの組織では対応できないことが現実に取りつつあるが、区役所の再編成も含めて考えているのか。
- 市の情報はたくさんあるが、1つの部署の情報だけでなく横断的な情報を定期的に提供するような組織になってもらいたい。

○「検討委員が何らかの形で携われる運営形態が望ましい」とあるが、お手盛りと捉えられかねない。これは入れる必要がない。検討委員がだめとはどこにも謳っていない。運営はできる人がやらなければつづける。

○施策を進めるときに評価が必要だが、その中で検討委員が集まって、どうかというやり取りをするような関わりが「検討委員が何らかの形で携わる」形としてはよいのではないか。

【ソーシャルデザインセンターの運営について】

○これを読んでイメージが湧いてこない。機能図や組織図、流れ図のたたき台のようなものを事務局が用意して議論する方がイメージが湧く。次回に向けて提案する。

○ここににいる人が作って持ってくればよい。最初から役所に任せというのは筋違いだと思う。

○自分の思いを人に図式化してもらうのは難しい。手書きでいいので作って提出してほしい。

○小グループでたたき台をつくれれば、検討会で議論しやすいが、どうか。

○個人的に案を持っている人がメール等で案を出す、又はグループワークで意見を集約する。やり方は2つに1つだと思う。小グループでなく全体でよいのでは。

○進行者と事務局が相談して、どうするか決めたら皆にメールでお知らせする。小グループでということになれば、そ

の際にメンバーを募集する。

◎次回検討会の司会進行をする委員を決定した。

(10) 第10回検討会

日 時 令和元年10月11日(金)
19時00分～20時50分
会 場 多摩区役所6階601会議室
出席者 委員20人、区役所職員3名

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○第9回検討会以降の振り返りを行った。

【寄せられた意見の開設案への反映について】

(項目1.「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における検討)

○特に意見なし

(項目2.多摩区を取り巻く状況)

○特に意見なし

(項目3.多摩区におけるSDCの開設理念)

○SDCの開設理念にあるべき姿として、透明性、公共性、公益性といった当たり前のことを謳わなくてよいか。

○「6 SDCの運営と多摩区役所の立上げ支援について」の中

で、SDCの運営に当たって求める留意点として、公平性や中立性について載せている。

○留意点に留まらず開設理念とする方が、助成金など申請する場合にはよいのか。

○一般論としては公平性がないと認められない。留意点にとどまっていればその時の判断によるので活動として担保されてないなら助成金は出せないということになる。

○理念として公明正大にやるということがあった方がよいという意見だと思う。それに賛成。

○中間とりまとめの中で、検討会で出た意見として「自ら必要な資源を獲得し、結果を出す、コミュニティ活動をする」という意見が掲載されていたが、抜けている。

○フォーラムでは、SDCがどういうところかという質問も多くあったので、位置付けを開設理念の説明に入れるとよい。検討会では、SDCは多摩区オリジナルの中間支援組織という意見もあったが、中間支援を行うということを入れてはどうか。

○中間支援だけを入れるのはなぜか。課題解決の機能もある。

○9つの基本的機能を包含した内容を考え、その文案を次回確認できるとよい。

○SDCは中間支援だけでなく課題解決も行うのか。課題解決をする組織を支援するのか。どちらが主かわからなくなってしまう。

○これまでの議論で、いろいろな機能や事業について意見が出て、総花的だが取り組む可能性があることを確認した上で、まとめている。その点はもういいと思う。

(項目4SDCの基本的機能と具体的取組について)

○特に意見等なし

(項目5.開設場所)

○せきれい跡地は、SDCが借りて賃料を支払うということか。

○せきれい跡地を借りたい人がでてきた場合はどうするのか。

○異議申立てや開示請求があった場合はどうなるのか。

○市の庁舎を借りて、外部団体が使用しているケースはどういうものがあるのか。

【ソーシャルデザインセンターの運営について】

○組織は当初できるだけ単純な形でスタートさせる。運営委員と各プロジェクトの責任者を置く。運営は月1回程度会議を設けつつ、必要に応じて増やす。その時に立ち上がっているプロジェクトについては、責任者と担当者の会議を行う。3年位で取り組む計画がよい。

○組織についてNPO法人であるとか一般社団法人が適当であるなど限定していない。理事、常任理事のところに事務局が入る。法人については賛助会員があてはまる。事業部自体がある法人が行うことはある。理事は多摩区の自然人がよい。

○活動団体支援機能は、事前審査が必要。合格すれば、支援

を実行する。審査し評価を実施することが中心と考える。事業として直営もあるかもしれないが、審査は同じ仕組みで行う。合法性、効率性、倫理性など、透明に評価する。

○時流に合ったものが必要とされている。組織の中はシンプルに広報、経営、企画に分け、経営が大きくなるべき。寄付を受けることをやっていける団体にする。どういう形でもよいが、組織を公募して公平性を担保することを強く推していききたい。

○機能を4つに整理した運営体制案が考えられる。地域づくりの担い手の育成と、地域団体の活動支援という中間支援的機能、課題の掘り起こしと課題解決の取組とその担い手を示している。空家対策、商店街活性化など解決のためのプロジェクトチームをつくることなども考えられる。

○SDC組織運営について、区としては最低限どういう形であればいいと考えているのか。任意団体でもよいのか。

⇒最終的には法人化が理想だが、開設時期を今年度後半としており、その時点で任意団体であったとしてもそれを拒むものではない。

○フォーラムでSDCは1つでなくてよいという意見があった。他に中間支援できる団体が何個もあれば、将来的に複数になってもおかしくないと思う。

○同じような機能を持ったものが出てくるのはよいが、多摩区SDCを何個もつくるという話ではないと思う。

○ポイントは自立と自らやること。3年後に出来なかったが補助金はもらいます、となることを避けるよう努力しなければならぬ。経済的に自立するために何から始めるかを考えていく時期に来ている。

○それには自立も必要だが、公的なことなので透明性は必要。寄付は受けるべきでない。SDCは行政の肩代わりをするものと認識している。

○お金を出す方の思いを見ている。それを活かすことは、市民創発的にはよいのではないかと思う。

○援助なしで出来ないのなら事業としてどうか。自分たちで稼ぐものを目指さない。

○いろいろな形で資金を得ていかなければ継続できない。会社とは違い、市民活動の一環である。資金も使い方も柔軟に考えないとやっていけない。寄付も会費も助成金もある。トータルで事業を動かしている。収益事業でなければならぬわけではない。寄付を受けないと今議論して決める場ではない。

○市民活動団体とSDCと機能が混同している。SDCとは何か固めないという議論が続いてしまう。

○今回運営組織に関するアイデアが出されたが、今後どうするのか。部分的に意見を述べるだけで残りの2回を終わりとするのか。

○最終的にまとめられる部分とそうでない部分がある。今日

のアイディアを[X]でまとめてほしい。

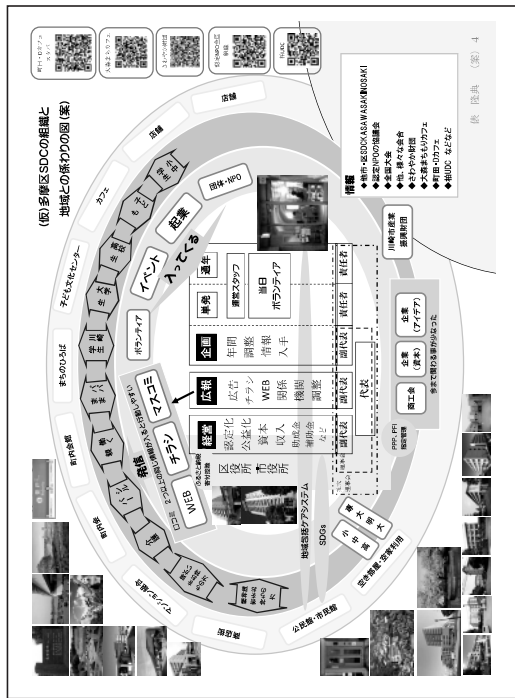
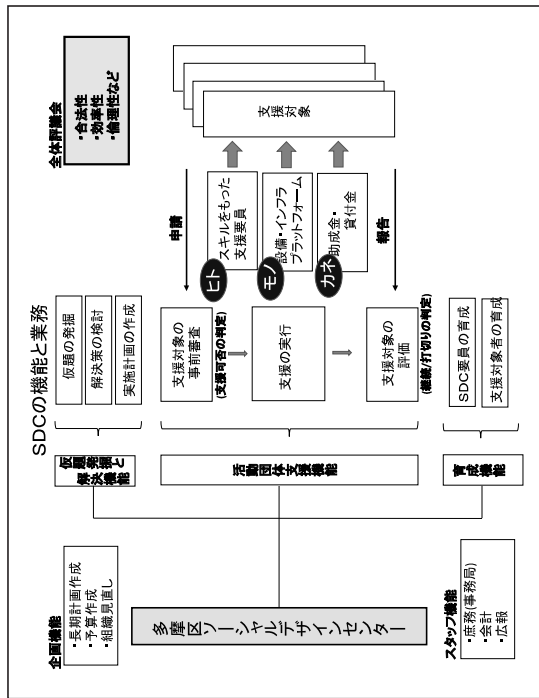
○次回はよりレベルの高い案に育てていく必要がある。やり方を全部区に任せるというのは自立ではない。

○残り2回であればまともになくても仕方がない。

⇒第12回は最終確認を予定しており、実質的な議論は次回
の第11回が最後となる。運営には様々な考えがあること
は承知している。区としてはいただいた意見を参考とし
ながら、考え方を一定程度まとめていく必要があると考
えている。意見がまともなのは理想の1つではあるが、
一致しなかったとしても合意形成するスタンスが大前提
としてある中で、まともな内容について意見をいただく
形はあり得る。

考
參

第10回検討会において委員から挙げられた運営組織図に
関するアイデア



※記録完成後に掲載

※記録完成後に掲載

多摩区ソーシャル・デザイン・センター運営体制案について
(「SDC開設案中間とりまとめ(7月)」に基づき作成)

[illegible]

2 機能を果たすために必要な業務

機能を果たすために必要な業務内容

